



< 受験準備期間 >

前回の受験後に、身の回りに大きな変化があった。何と、転職をしたのである。事情はいろいろあるがここでは書かないことにする。「諸事情があり次回受験できるかどうか分からない」と前回の出張記に書いたが、そういうことであった。もちろん自費であることには違いはないのであるが、SIer にいれば自費で休暇とはいえ、理解を示してもらいやすいが、転職先ではそういうことがどう理解されのかがわからないため、二度と行けない可能性もあった。しかし、「理解が得られないのであれば辞めるしかないな」と覚悟を決めて交渉し、無事に行けることになったのである。

しかし、前回は会社の機材を借りて勉強した私であるが、今回はそういう支援は一切ないので、全て自分で調達した。結構お金はかかったが仕方ないです。

また、会社に機材を置けないし、置いたとしても自宅からアクセスできない(モバイルの仕組みがない)ので、深夜に勉強できず不利になるため自宅に環境を構築した。外部からもアクセス可能である。ガレージ内に設置したのであるが、夏ということもあって大変暑い。我がガレージは冷房可能なのであるが、いっばいに冷房を効かせてもギリギリという状況である。

前回、試験直後には「合格した」と確信した私であったが、僅差でダメだった。スコアレポートは公開していいものかどうか分からないのでやめておこう。

転職直後でなかなか自分のペースを掴みにくい状況ではあったが何とか勉強を進めた。会社で勉強ができないのが大変つらい。今までは時間があけば勉強に当てさせてもらっていたが、それができないので

全て自宅である。夜は、そこそこ遅い時間に帰るので平日の夜の勉強は苦しい。土日中心であるが時間が足りないのである。

しかし、臆病者である私は、何かを諦めることが怖いのである。一度諦めてしまうと、次も何か壁に当たった時に諦めてしまうような気がしてしまう。一度やりかけたら、絶対に最後までやらないとダメな性格なのである。

そうこうしているうちに、何と前職の会社がユーザカンファレンスを開催するというので案内が来たのだが、誰も行くことができず、何と私が行くことになった。大きなホテルで開催されるもので、かなりの大規模なものである。ほとんどの営業さんは各お客さんを待ち構えているはずである。何もコソコソする必要はないのであるが、転職して一ヶ月も経っていないので微妙な感じである。

かと言って変装していくのもおかしいし、何とかバレずに受付できないかと思ってかなり早く行ったのであるが、やはり受付に近寄った時点でもうバレてしまった。あー、恥ずかしい。何人かの方々とは話もでき、とても楽しかったが、やはり恥ずかしかった。でも、少し気持ちをリフレッシュできた。

今回は縁起に徹底的にこだわった。私は下記を海外受験の際に実行すると決めている。

- 1．成田空港のマックで何か食べる
- 2．移動はもちろん JAL のエコノミークラスで
- 3．ホテルは THE SEBEL
- 4．メシはさとうのご飯を中心に
- 5．セブンイレブンで水とファンタオレンジと定番のプリングルスを買う

前回は、ホテルクーポンの関係で3を実行しなかった。結果的にホテルに電子レンジがないので4もダメであった。これが敗因であろう。

今回、わざわざビジネスクラスをエコノミーにダウングレードした。予約時点でエコノミーが取れずにビジネスにしていたのだが、エコノミーのキャンセル待ちをして、変更をした。それくらいこだわった。

あとはラボと闘うだけである。この勝負、負けたくない。

< 8月20日(土) >

出発日を迎えたが、実は散髪をしていない状況である。気合を入れるために散髪は欠かせない。これは選手権でレースを走っている頃からの風習である、自分の中では譲れない。

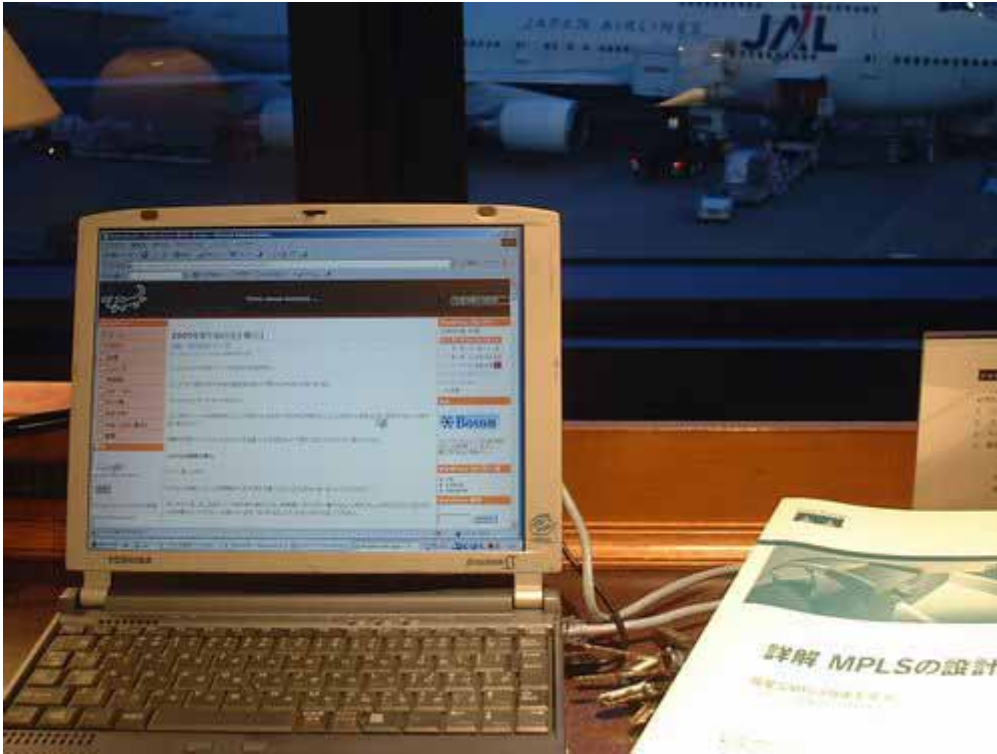
前日から交渉していつもよりもお店を早く開けてもらい、何とか朝の9時から髪を切ってもらって、昼過ぎから出発。羽田を経由して成田に6時くらいに到着。最近は風格が漂ってきたのであろうか、専用カウンターのおねえさんに邪険にあしらわれることもなくなった。体重が増えただけという噂もある。

今回は4席ぶち抜きで席を確保してもらった。勉強に疲れたら寝ればいい。とても移動が楽になった。



出国手続き前にどうしてもやることがある。そう、マックである。私は意外にも小食なので機内食の前に何かを食べたいと思わない。でも何かマックで食べないといけないので、そういう時の定番はマックシェークである。体に悪いが、縁起も大事である。

出国手続きに異様に人が並んでいたのが時間調整の意味でもちょうどいいだろう。何でもホノルル行き
の臨時便が出るらしくて、その余波であるとのこと。あー、遊びに行けていいですねー。



しばらくして行くとスムーズに出国完了。あとはラウンジで時間まで勉強するだけである。私の技術的バイブルである Foota-net を見たりして時間を過ごす。

シャワーも浴びておきたい。ということで今回もシャワー利用。夏なので成田に着いた時点で汗びっしょりである。

また、受験間際になって TE を勉強していたのだが、自分の中では勉強が足りていないのでその確認を繰り返す。勉強が足りていないうちは「頼むから出題されるなよ」と思っているが、勉強も進むと出題された方が嬉しくなってくる。だって解ける自身があるから。

定刻どおりにフライトである。乗り込むいつものように担当の CA さんが挨拶に来る。あ、どうも。よろしくお願いします。担当の CA さんは、周囲の同僚にも

「ここにダイヤモンドステータスのガレ兵さんがいます」

と申し送りをしている。今回は快適なフライトになりそうだ。

機内では勉強するか、寝ているか、である。ビデオプログラムをチェックすると、何と networker さんご推奨の皇帝ペンギンをやっているみたいである。しかし、こういう誘惑に負けてはならない。帰りの便で、もしフライトまでに合格がわかっていたら帰りの便の中で見ればいい。合否がわかれば帰日も勉強である。不合格ならば、やはり勉強である。

食後もしばらく勉強して、メラトニンを服用して寝る事にする。4 席ぶち抜きなので、いっぱい足を

伸ばしても大丈夫である。深くは寝れないが、寝たり起きたりを繰り返しながら、やっと朝の7時にシドニー到着である。闘いの地、死ドニーである。試験開始まで、約24時間。頑張るぞ。

< 8月21日(日) >

なぜか観光客が多くて、入国審査に時間がかかった。いつもはほとんど並ばないのであるが、30分くらい待たされたらどうか。当たり前だが無事に入国審査を抜けて、いつものようにさとうのご飯を申告する。「Dried Rice」と説明してもよくわからないので見せると納得するようだ。

空港からホテルまではCityRaleと呼ばれる電車を利用する。何せ、自費なのでタクシーは使えない。駅までは少し距離があるのでスーツケースをゴロゴロ引いていく。距離がある、と行っても空港の建物内である。利用する航空会社によっては近いかもしれない。JALの場合は遠いです。

と、あれ？ 駅の入り口に立ち入り禁止みたいな看板がおいてあるが、何だろう。掃除で床が濡れているから注意しろ、みたいなものかな。よくよく見ると、「休み」みたいな感じで書いてある。ん？ 何？ 強引に中に入ってみたけどエスカレーターが動いてないよ。嫌な予感。

入り口横にインフォメーションがあったので、聞いてみると

「メンテナンスで運休している」

とのこと。まさか、と思って

「何時までメンテナンスですか？」

と聞くと、衝撃の事実が発覚。何と、終日運休である。そんなことってあるんでしょうか。仮にも国を代表する国際空港からの電車である。インフォメーションは

「Chaswoodに行きたいならバスを利用しなさい。セントラルで乗り換えるといいだろう」

と言うが、あまりリスクを冒したくないのが本音である。

ちなみに電車を利用してセントラルで乗り換えるのは同じである。セントラル駅はとても大きく、プラットフォームも確か24番とかまであるので、乗り換えの際は駅員さんに聞いた方がいいだろう。私はいつも尋ねることにしている。

バスで乗り換える要領がわからないので、結局、タクシーを利用することにした。金額的にはかなり痛い。SEBELにタクシーでいく場合、行き先を間違われる可能性が大きいので地図を持参したりするのであるが、今回は電車利用のつもりだったので地図を持っていない。不安だったが、運転手さんは

「SEBELなら知っている」

とのことなので安心である。

オーストラリアでは取り外し式の ETC みたいなものが普及しており、シドニー湾の下を通るトンネルを通過する時に通行料を支払うことになっている。空港の乗り入れ料を含めてタクシー代は 60AUD くらいであった。

ほとんど現金を持ってきていない私はカードで支払った。この国ではまずほとんどのタクシーでカード利用可である。不安であれば空港で乗る時に、タクシー客を整理している係員がいるので、その旨を伝えて利用できるタクシーに確実に乗ればいだろう。

この時点で9時くらいであるが、果たしてチェックインできるかどうか分からない。案の定、部屋がまだ準備できないとのことで、携帯の番号を控えるから準備ができたなら連絡をくれる、ということになった。



スーツケースだけはホテルに預けてショッピングセンターで時間をつぶす。このショッピングセンターはとにかく巨大である。なかなかここまで巨大なものは見たことがない。



まず、マックで朝食を食べて、それからカフェに移動する。もちろんカフェでもずっと勉強しているの
であるが。また、このショッピングセンターには日本食のスーパーもあるので、そこでカップ麺やのり
玉のふりかけなどを購入する。



オーストラリアは真冬であるが我慢できないほど寒いということはない。事前に気温の推移とかを調べ
ていくことをお奨めするが、極端な厚着が必要だと思ったことは過去一度もない。

昼前になっても電話かかってこないから、様子を見てこよう、と思ってホテルに行くと余裕で部屋が準備できるようだ。どうも朝のフロントマンが申し送りをしてなかったようである。で、すぐに部屋に入れた。

このホテルのエレベータは、用の無い階には行けないことになっている。フロントで部屋のカードキーとは別途渡される IC カードを、エレベータの認証装置にかざすことで、自分の宿泊する階と、必要最小限の階のみに行くことができる仕組みである。



部屋はいつもの通りである。水とファンタとプリングルスをかうためセブンイレブンに行って、少しだけ仮眠を取り勉強開始。

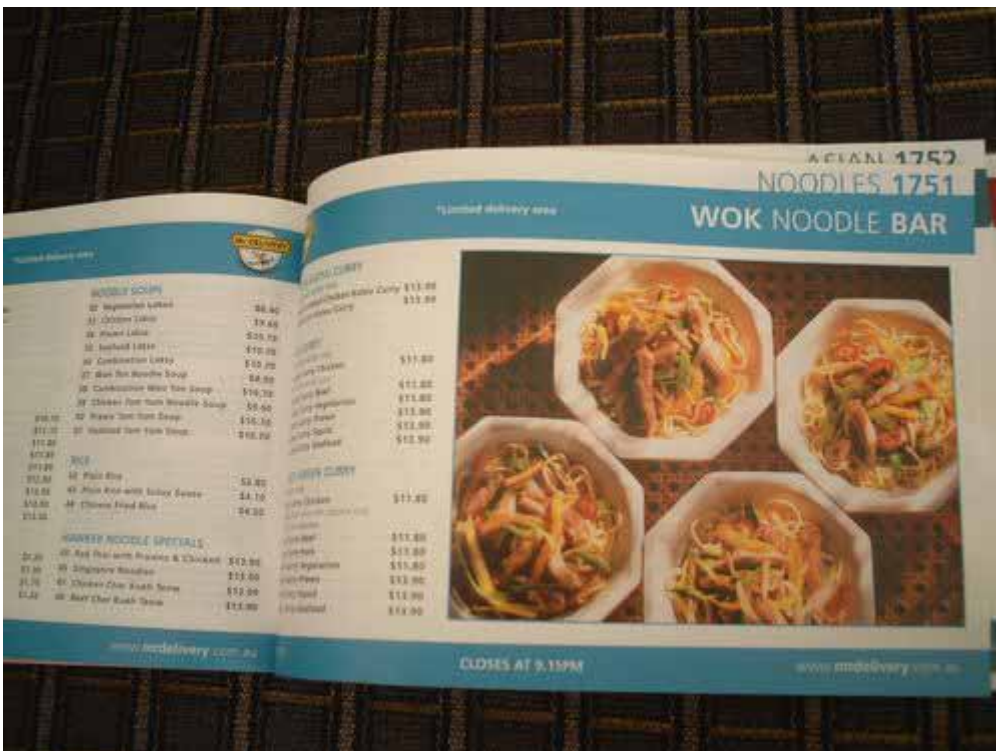
私は自宅ガレージにラボを構築している。固定 IP アドレスをもらっているので、普通に NAT して内部にアクセス可能である。勉強中にコマンド確認しようと思ってアクセスを試みるが応答が無い。すぐに家に電話して、BB ルータとアクセスサーバを Reboot してもらおうが復活しない。何で、この大事な時に。。

自宅ラボへのアクセスは諦めることにした。アクセスができることを前提で最後のホテルでの勉強を考えているので、被害甚大である。

これは後日判明したことであるが、小さな ISP に勤務する私は愛社精神から会社の BB サービスを利用している。結構、頻繁に障害や工事があって停止を伴うのであるが、工事等でいったん PPPoE のセッションが切れた後は、内部からパケットを飛ばさないと BB ルータは自分からはセッションを確立しようとならないのである。ちょうど土曜の夜に障害があったので、日曜は外部からアクセスが不能になったということである。



SEBEL ホテルには CD ミニコンポが設置されているが、私は日本からわざわざ CD を持ち込んでいる。5 連奏のチャンジャーであるが、一枚目は必ず佐野元春の NoDamage である。オレはつまらない大人にはなりたくないのである。



晩御飯はカップ麺とさとうのご飯である。なお、部屋にはデリバリーサービスの注文書が置いてある。周囲のレストランからの配送になるみたいだが、種類も多く、利用させる方がいけば是非感想を聞かせて下さい。



ひとつ注意があるのだが、キッチンのコンロは四口であるが、点火するのが実に難しい。私はいつも右の手前のコンロしか点火させれない。部屋が変わっても、いつも右の手前だけ点火できる。何でだろ？ わからないが点火が難しいのは事実である。皆さん、右の手前ですよ。注意して下さいね。もし、ここ以外のコンロを点火できた方は是非連絡を欲しい。

ところで私はカズが大好きである。どのカズだ？ とかそんな失礼なことを聞かないで欲しい。世界でカズと呼んでいいのは一人である。(Foota-netの主催者はkazuであり、カズではない。これは許そう)

そのカズがシドニーでプレーする可能性があるらしい。もし、そんなことになれば、私は自分のポリシーを曲げてでも一日多く滞在してカズの海外での活躍を観戦しにいくだろう。

カズがフランスW杯のメンバーから落選した時、私は会社にいたのであるがそれを日刊スポーツの速報で知った。他の社員が業務に関係の無いサイトを見るのは厳禁で取り締まりを行っていたが、私のPCのアドレスだけは監視を抜けるようにしていた。日刊スポーツを見ながら涙を流したのをよく覚えている。

もちろんあの時点でカズが調子を落としていたことはわかっていた。だから多くのカズファンは落選したこと、そのこと自体に批判的になったりしていないと思う。日本代表のユニフォームを着るためにブラジルから戻ってきたカズ。Jリーグを引っ張ってきたカズ。そのカズに対してあのような措置はなかったのではないか。それがカズファンの論点であると思う。

戦う相手を想定したらカズは不必要だった、と当時の監督が言った。戦う相手なんて何ヶ月も前から決定している。しかも合宿先での、直前の地元チームとの練習試合でカズはハットを決めている。落とす

と、ほぼ決めていたのであれば何で練習試合で使ったのか。調子を試すのであれば、ハットを取っても「実力不足」という判断なのか。

もちろん、したり顔で

「プロなんだから、何の感傷もなく当然。」

という意見があるのは理解している。本当にそうだろうか。ひとりひとりの実績や人望などに相応しい送り方というものがあっていいのではないだろうか。

当時の監督は余計な感情などを持っていないということを強調したかったのであろうか、

「外れるのはカズ」

とだけ報道陣に告げた。カズは自分の気持ちを周囲に伝える手段を与えられることもなくフランスを後にさせられた。

あのとき、たった一言

「カズには、今までありがとうと言いたい。」

とコメントがあっても悪くなかったのではないかと、今でも思っている。

数週間後に髪を染めたカズが成田に戻ってきた時に、きちんと上を向いて報道陣に受け答えしている姿をみて、また泣いてしまった。カズには今後も生き抜いて欲しい。レベルは全然違うが、自分もこの IT 社会を生き抜いていくから。カズみたいに第一人者ではないが、コツコツと頑張るから。

ガレージ兵頭ラボにアクセスできないことで調子が狂った感がある。とても焦るが、できる限りに勉強を進めていく。最終チェックが終わった。

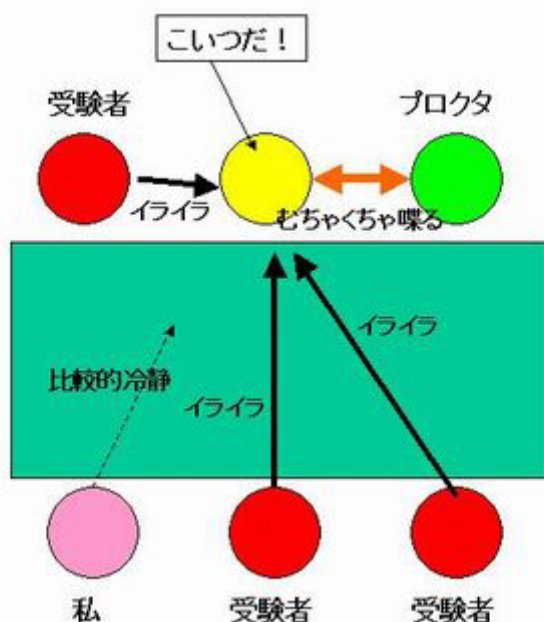
そろそろ寝ることにしよう。できるだけ睡眠は取っておきたい。試験開始の 3 時間前には起床することになっている。メラトニンを飲んで、おやすみなさい。明日はいよいよ決戦である。

< 8 月 2 2 日 (月) 試験当日 >

いよいよ決戦の日である。朝食はご飯にふりかけである。前回はホテルが遠かったのですごく余裕を持って出かけたが、SEBEL の場合は 5 分で着くので 8:30 の集合に対して 8:00 にホテルを出た。すぐに到着。受け付けを済ませる。昼食の選択はカルボナーラのペンネである。これも定番である。飲み物はコカコーラライトだと決めている。

受験者は全部で 4 人。私以外は全員が R&S である。現在、新宿でどのように試験の説明をしているの

か知らないが、死ドニーでは始めて受験に来た時を除いて、最近は特にブリーフィングを行わない。立ち話程度の説明で終わる。ただ ISDN の Switch-type だけは説明がある。そりゃ、その国の Type なんて、知らないから。そんなのを覚えていることをスキルとは決して呼ばない。



プロクタは、前回、昼食でイライラを募らせたヤツである。でもよく聞くと昼からはプロクタが入れ替わると言っている。ああ、昼からはいつものプロクタさんだろう。まあ、どっちでもいいのであるが、私のスキルレベルを知っていてくれた方が、しょぼい質問をしているわけではない、と当初からわかってくれるので助かるのである。

試験開始。8時間の長丁場の真剣勝負である。もちろん試験の内容は話せない。そういうルールである。構成的にちょっと狼狽したが、まず IGP をうまく動作させることができた。よし。ping は飛んでいる。隅々まで飛んでいる。

だが、他のセクションが難しい。焦るがどうしてもあるポイントの解決方法がわからない。汗が吹き出してくる。が、わからない。ここを落とすと、多分その後に続くセクションを一網打尽で落としてしまうだろう。ヤバイがわからない。採点基準が公開されていないので、もしかしたら点をもらえるかもしてないが、その辺りの判断がつかない。

ここを無視して他で点が取れるのか、根本の思想が間違えば、後の問題はダメなのか、、、 プロの受験家の私でも判断できないところである。



あっという間にランチである。げげっ、このプロクタはまたやってくれるかもしれない。ゆっくりと飯を食い、受験者たちをイラつかせるだろうか。不安を抱えながらランチ開始。午後のプロクタもランチと一緒に食べるようである。

いつものプロクタは

「Tatsuo は MyFriend だ。彼はトリプルを狙っている素晴らしいチャレンジャーだ」

と他の受験者に紹介してくれる。まっ、そんなことはどうでもいいから。。

逆に私は

「あなたの著書を同僚に紹介している。皆、エクセレントだと言っている」

とお世辞を言っておいた。いや、彼の著書は本当に素晴らしい。

ここでふと思ったのであるが、このカルボナーラのペンは本当に一番まともなのだろうか。天才 N と来た初めての受験時に、たしかチキンサンドを頼んで大失敗で、それ以来サンドイッチを避けているだけのような気がする。どうも、挑戦する気持ちを忘れていたようである。もし、次回来ることがあれば、少しは挑戦してみよう。ベジタブルサンドなど、もしかしたらいけるかもしれない。

私は仮にもプロの受験家である。同席者がランチをゆっくり食べたからといって動揺したりしないが、やはり、彼は期待を裏切らなかった。私を含めて全員の受験者があっという間にランチを終えているのに、プロクタはむちゃくちゃおしゃべりをしながら全部食べようとする。頼むから、しゃべらないで食うことに専念してくれ、と他の受験者の顔に出ている。

実はこのプロクタは、どこの生まれだか知らないが、日本人に見えるのである。彼はラボを新宿で受けたいらしい。説明が日本語ばかりで閉口した、などととにかくしゃべりまくっている。別に笑ったりしないから、そんなことそんなにおかしくないから、早く食べて下さい。

やっと終わった、と思ったら、紅茶をゆっくりと飲んでいる。しかもポットからおかわりまで注いでいる。最後まで期待を裏切らない男である。

さて、午後の開始。残り4時間。やはり難しい。一網打尽で点を落とせば間違いなく不合格であるが、解釈によっては合格できるかもしれない。一網打尽を防ぐために勝負に出るか否か。その結果で Routing に影響が出ることを避けるか。。

結局、勝負に出なかった。

試験終了。お疲れ様でした。私は帰りにはプロクタと握手をして帰ることにしている。握手しながら

「やあ、Tatsuo。もう二度と来るんじゃないぞ」

と嫌な挨拶をされてしまう。そりゃ、俺だって落ちたくないよ。

すぐにホテルに帰って試験内容をまとめる。

と同時に解析の開始。うーん、他の間違いも発見されて、まずい状況である。こりゃダメかもしれない。とても厳しい闘いであった。いつもの何倍も疲労した感じである。通常であれば夜遅くまで解析作業を続けるのであるが、今日は勘弁して欲しい。0時にはダウンである。

明日の朝が早いので最低限の荷物をまとめておかないといけない。もし合格すれば、もうこの死ドニーには来ないかもしれない。Voice は死ドニーでは実施されていない。だから、もう来たくないのであるが、どうなるのかわからない。複雑な気持ちである。

明日は、5時半起床である。フライトが九時過ぎなので、どんなに遅くても二時間前には空港に着いておきたい。6時に電車に乗って空港到着は、6時40分くらいか。

前回はすぐに結果が来たので、メールを何度も確認してみるが、なかなか結果は来ない。うーん、嫌な感じ。受験の後にはいつもこうである。私の合否を楽しもうと考えている読者も多いのであろう。ブログのカウンタは異様にアップしていく。公開受験も楽しじゃないっす。

結局、合否は来なかった。そろそろ寝ます。おやすみなさい。

< 8月23日(火) >



電車で空港に向かう。が、Chatswood の駅は改修中である。あれ？ 切符売り場がないぞ。そのままホームに向かうと、何とホームに券売機が置いてあった。皆さん、気をつけて下さい。空港までは 12AUD くらい。高いなあ。

エグゼクティブカウンターでチェックインするがほぼ間違いなく満席であるとのこと。元々、3 席ぶち抜きを期待していたが、どうせ満席になるというので、グローバルのために確保されているシートから EXIT を選択した。

すぐにラウンジに向かい、メールチェック。うーん、まだ来ていない。解析の続きをやっていると、やっと合否を伝えるメールが届く。いつも指定された URL を開く時には心臓が止まりそうになる。

結果は不合格。やはり一網打尽で失点しているようである。勝負に出るべきだったか。。

不合格直後は、半分は覚悟を決めていてもやはり呆然としてしまう。つぎ込んだ時間とお金を考えるととてもつらい。

お金もかかるので、何度受験できるかわからない。ただ、前に進みたいという気持ちが無くならない限り、借金で受験費を出せる限りは続けるであろう。



ところで、帰りの便で悪魔の囁きがあった。もちろん合否がわからない状態だったので書籍類は持てるだけ手荷物にしている。勉強しながらの復路である。ふと、ビデオプログラムが目に入ってしまった。ああ、皇帝ペンギンをやっていることを思い出した。やべえ。networker さんとの関係上(どういう関係だ?) 見ないわけにはいかないだろう。そんなに長い映画ではなかったが、結局見てしまった。タイトルから想像させるストーリーとは全く違ったが、なるほど面白い映画であった。ペンギンも厳しい社会を生き抜いているんですね。

18:00 に成田到着で 19:45 成田発の福岡便で戻るべく、SAKURA ラウンジで勉強しようとする、

「兵頭さんじゃないですか？」

という声が出た。あれ? と思うと、何とサンノゼでのセールスミーティング帰りのシスコ福岡オフィスの一団と鉢合わせてしまった。何も悪いことしていないので何ということはないが、何だか変な感じである。もちろん、福岡オフィスの方々は全員顔見知りである。羽田であれば時々知り合いに会うが、成田では珍しいことである。

次の受験は 10 月の上旬に決めた。今度こそ決めて見せる。

オレは負けない。もし負けても最後は絶対に勝ってやる。